

僧到彼漱凡繫乎。一萩以一草鞋擲散洲中、柳枝亦然、其不知幾千百人又不知爲其事。到明年萩與柳生洲中、鬱々葱々爾來刈之爲薪也。漱廣可方五百里、故一年受用殆乎三百貫之資云、寺用有餘、故州中養于薪者亦刈之、率三分一以供寺、于今如此云々。又曰、人傳開山乃高野大師再來、故雙桂贊、有高山起定歸禪派、熱社施田護法門之句、蓋熱田明神有施田之異、下句謂之也。予曰、栽萩柳之計、如石曼鄉種桃而用破草鞋類陶侃拾竹頭之屑之意乎。

〔閑窓自語〕當家植柳事

寶永の火までは、當家原○柳中筋の敷地、東面五十間ばかりもありしに、東のかたの筑地のほとりに、いと大きな柳ありて、梨木町におほひ葉のしげる比は、日をももらさで、おのづからひるもをぐらくよるは蟬の火のあかりおりするとして、子どもなどおそけるとぞ、同じ七月二日の大風に、東のかたにたれぬ、十丈にもあまれる木なりければ、枝はやがて京極通におよぶとなむ、さて當家には、室町のかみ柳原に梅寮どのらの廻里第をたてられしゆかりとて、居所をかふるにも、かならず柳をうるよし、曾祖一位殿仰せられきとなん、今の第すじにも、やなぎ數株あり、去年四年岡崎に新第をつくらしめしにも、柳をうゑおかしめぬ、

〔武江產物志 遊觀〕柳 印の柳 隅田川 鹿灘柳 麻布善福寺 夫婦柳 兩國の南 見歸り柳 吉原

〔本草和名木十四〕水楊葉 和名加波也奈岐

〔倭名類聚抄木二十〕水楊 本草云、水楊夜奈木 加波

〔箋注倭名類聚抄木〕千金翼方證類本草下品載水楊葉○中 古今注、水楊蒲楊也、枝勁細、任矢用、證

類本草今注云、水楊葉圓闊而赤、枝條短硬、多生水岸傍、樹與楊柳相似既生水岸、故名水楊也。

〔書言字考節用集六生植〕檉爾雅河旁赤莖小楊也、郭璞云、

赤楊

河柳本同

〔本草一家言三〕水楊 保赤全書云、生水邊細葉紅梗、枝上有貞果、有白鬚散出俗稱狗子柳者也、痘疹